

令和2年度第2回帯広美術館協議会委員意見

項目	意見・要望等	回答
<p>1 帯広美術館の活性化について</p>	<p>1991年9月22日に開館した北海道立帯広美術館の開館30周年の記念事業を予定している関連4事業に加え、更にパワーアップすべく企画したらいかがでしょうか。帯広市民だけではなく、近隣町村から訪れてみたくなるような招待券、優待券を効果的に配布してみたら良いと思います。</p> <p>まず一度訪れて、体験することがアートに触れる第一歩です。</p> <p>昨年度のチームラボ展により、若い世代や親子連れの来場者が大幅に増えたことは、今後も幅広い企画内容の展覧会開催が人を呼びこみ、美術館の活性化につながると思います。</p> <p>HPがリニューアルされるとのことで期待したい。機能面はもちろんだが、美術館のサイトとしての美しいデザインも求められると思う。</p> <p>基本的運営方針Eのキャンパスパートナーシップについて、帯広畜産大学、釧路公立大学、釧路短期大学にも加わってもらえるよう、働きかけを求めたい。</p> <p>良いもの、魅力あるものには人は引き付けられるが、展覧会のみならず今までも企画されているロビーを活用したギャラリー、コンサート、トークなど、予算の許す限り良いものを多く開催することも活性化への一つの要因になると考える。数にとらわれず、来館者の心に残るものを大切に、今後も続けて頂きたいと思う。</p> <p>新聞やテレビを見ない世代にどのようにしたら美術館に足を運んでもらえるかを考えると、学校や公共施設での案内も必要だが、インターネットの環境が大きいと思います。今年HPがリニューアルされるとのことで期待しています。</p>	<p>30周年に相応しい企画等を計画したところですが、更に内容の充実を図っていくよう検討して参ります。</p> <p>今後も引き続き、親子や年代を問わず楽しめる魅力ある展覧会を企画して参ります。</p> <p>今回の大幅なリニューアルに伴い、魅力あるHPとなるよう、今後、内容の充実など努めて参ります。</p> <p>キャンパスパートナーシップについては、帯広畜産大学等への働きかけを行っていく。</p> <p>今後も引き続き、魅力ある教育普及事業を企画して参ります。</p> <p>HPのリニューアルをはじめ、Facebookなどインターネットを活用し、魅力的な内容となるようコンテンツの充実にも努めて参ります。</p>
<p>2 道東地域の文化振興の発展について</p>	<p>道東地域は北海道開拓の先進地です。</p> <p>先人が苦勞して拓いた大地に豊かな実りが出来るようになるまでの歳月は文化を生き育てる歳月でもあったと思います。</p> <p>種をまき、育てることは子ども達へのアプローチが大切だと思いますので、高校生への高文連書道部全道大会の連携など良い取り組みでした。</p> <p>道東各地に地域が生んだ芸術作家がいらっしゃると思うので、そういう方達の掘り起こしをして、ぜひ展覧会を企画していただきたい。</p> <p>コロナの影響もあるが、池田緑展など地域の作家や作品に光をあてる取り組みが良かったように思う。</p> <p>神田日勝記念美術館との連携も良い実践に思う。今後は博物館や動物園、図書館とも連携し、道東文化の発信や掘り起こしに、さらに努めて欲しい。</p>	<p>今後も引き続き、全道大会等の情報収集に努め、関係団体と連携して参ります。</p> <p>今年度開催した「池田緑展」のように、今後も引き続き地元作家や関係機関と連携し、魅力ある展覧会の企画について検討して参りたい。</p>

	道東の各地域の人々が自分たちの持つ文化の価値に気づいていないことが多い。それに気付くためには、他の地域に出かけて行き、外の世界を知り、自分たちの文化を再認識して誇りを持ってもらうことが大切と考える。美術館の人と作品の交流もそれを助ける一手段となるのではないかと思う。	今後も引き続き、アートギャラリー北海道事業などネットワークを活用し、他館との連携を通して、道東地域の文化振興の発展に努めて参ります。
3 美術館の役割に期待すること	日々の生活の中で「美しいもの」に触れることは、心がけていてもなかなか継続していくことは難しいのが実状です。 負担が少なく済むように「年間パスポート」や「リピーター割引」などを設けて、美術館に行くことが、特別なことにならない工夫をしていただきたい。	「リピーター割引」については、今後も引き続き実施して参ります。 「年間パスポート」などの導入については、ニーズや他館の状況を注視して参ります。
	絵画や造形物を鑑賞する場に加え、触れることなど次代を担う子ども達が気軽に美術館を訪れる機会が増えるような企画を期待します。	今後も引き続き、親子や年代を問わず楽しめる魅力ある展覧会を企画して参ります。
	基本的運営方針Dの二次資料の状況で、収納スペースの狭隘化が挙げられており、とても心配している。一次資料と表裏一体のものであり、収蔵庫の増設や道立図書館との連携などを求めたい。 調査研究は学芸活動の要であり、一人一人の学芸員が専門分野に基づき知見や技術を發揮して伸び伸びと研究できる環境の構築を望む。	今後も引き続き、関係機関と連携し美術館運営に努めて参りたい。 また、学芸員の調査研究は、美術館活動の根幹を成すものであり、今後も研究成果を発表出来る環境の構築に努めて参ります。
	インターネットや図書で美術作品の写真や動画など観ることができる現代であるが、やはり実際に美術館に足を運び、本物の作品を鑑賞して、感動したり精神的な充実感を得ることが美術館の大切な役割と考える。人々が自由にそれらを得られることを常に願っている。子ども達の成長のためにも。	今後も引き続き、親子や年代を問わず楽しめる魅力ある展覧会を企画して参ります。
	美術館は展覧会や収蔵作品の管理をしつつ、教育的な目的を伝えるという役割があるので、幼稚園から大学までの学校行事と連携や支援が多く出来れば良いと思います。	今後も引き続き、教育関係団体と連携を図るとともに、展覧会等の情報を広く発信し、各種学校との連携を図って参ります。
4 今後の取組（要望）	展覧会で出会える絵はその年・その場限りであることが多い。そのため休館や入館制限は児童・生徒にとって折角の出会いの機会を逃すことになる。著作権等検討を要する事項もあろうが、今後の入館者を制限しなければならない事態に備え、zoomを活用して、学校の美術授業に積極的に参加するなど、教育普及事業の新たな方法を検討していただきたい。	オンライン授業等デジタル機器の活用について、状況に応じて適切に対応して参りたい。
	昨年の「チームラボ」のような親子で楽しめる企画。 近未来を意識した企画が必要なのではないのでしょうか。参加型ワークショップスタイルは必須です。 新しくなるHPもより魅力的なものを期待します。	今後も引き続き、親子や年代を問わず楽しめる魅力ある展覧会等を企画して参ります。 HPのリニューアルをはじめ、Facebookなどインターネットを活用し、魅力的な内容となるようコンテンツの充実に努めて参ります。

	<p>今年は手島圭三郎展や水木しげる展など、馴染みのある方達の展覧会が開催されるので楽しみである。絵本原画展の企画も検討願いたい。</p> <p>市内や十勝管内に散らばる公有の絵画などについて、メンテナンスや管理が不十分で劣化が心配されているものが少なくない。市町村と連携し管内の自治体が保有する作品の実態調査をしてほしい。その上で必要な対策について共同で検討していただきたい。</p> <p>可能であれば「伝統工芸品」を含む工芸品の展覧会を希望する。職人の技は伝統を受け継いできた貴重な価値ある技術で是非拝見したいと思う。実演があればなお良い。</p> <p>帯広にはおいしいお菓子も沢山あるので、展覧会に関連したワークショップでのお菓子作りやそのテーマに沿った菓子類を地元のお店とコラボして作り、販売できたらミュージアム・ショップでの楽しみも増えると思います。</p>	<p>「手島圭三郎展」のような絵本原画展の企画を今後も検討して参りたい。</p> <p>これまでの調査結果を確認の上、新たな調査対象等を把握したい。</p> <p>今後も引き続き、親子や年代を問わず楽しめる魅力ある展覧会等を企画して参ります。</p> <p>展覧会に関連した事業については、今後も引き続き、「しらかばの会」と連携して参ります。</p>
上記以外（自由記載）	<p>協議会の開催時期について、例年9月、10月に第1回が開催されますが、少し開催時期が遅いのではないかと考えております。できれば、第1回は7月頃に（役員改選後なるべく早く）。前年度の事業結果報告と当該年度の事業計画（一部進捗状況）。第2回目は2又は3月。当該年度の進捗状況と次年度の事業計画。新しい委員からの意見を早めにお聞きできる工夫があってもよろしいかと考えております。</p> <p>3月1日（月）十勝毎日新聞一面下の「編集余録」を読んで思いました。道立帯広美術館で開催中の「池田緑展」の図録が校了し、3月4日にミュージアム・ショップに並ぶという池田緑さん本人の記事でした。展覧会と時を同じく新聞に載ることはとても良い連携だと思えます。地域の方に届ける情報は多ければ多いほど良い。</p> <p>6年間協議会委員として様々な展覧会を観ることが出来て、改めて帯広美術館に関われたことを深く感謝します。根室からは遠いですが今後も出来るだけ足を運び、応援者でいたいと思います。</p> <p>美術情報提供の充実度でもHPアクセス件数が増えているなど、デジタルの活用は今後も積極的に進めて頂きたい。その意味でも、道立美術館ポータルサイトができて、帯広美術館HPもリニューアルし、更に情報発信を充実させていくことには、大いに期待しています。</p> <p>来館者との接点に立つミュージアム・コンシェルジュの人々が働きやすい職場・労働環境となっているか、常に点検・改善が図られるように留意してほしい。同時に多くのボランティアにも支えられているので、活動にあたって不便に感じていることはないか、困っていることはないか、常に耳を傾けるようにしてほしいと思っています。</p>	<p>第1回の開催時期については、協議内容等に応じて、実情に合った時期を検討して参りたい。</p> <p>今後も引き続き、地域の広報機関と連携し、広く積極的な情報発信に努めて参ります。</p> <p>—</p> <p>HPのリニューアルをはじめ、Facebookなどインターネットを活用し、魅力的な内容となるようコンテンツの充実にも努めて参ります。</p> <p>今後も引き続き、積極的なコミュニケーションを通して情報共有を図り、スタッフや「しらかばの会」とも連携し、美術館運営に努めて参ります。</p>

	<p>今回も企画されているゲーム形式の鑑賞体験は子ども達が楽しみながら作品をじっくり観て考え、美術作品に興味を持つきっかけとなり、非常に良い企画だと思う。</p> <p>今年度のミュージアム・コンサートはコロナ禍の下、3度も演奏回数を増やして頂き、地域住民としてとてもありがたく思っている。</p> <p>改めて2年間の展示内容と集客数を見ると、自分の考えや常識だけでなく、様々な沢山の視点が必要で収入の面も考えていかなくてはならないと感じました。</p>	<p>今後も引き続き、魅力ある展覧会や教育普及事業を企画して参ります。</p>
--	--	---